

# 小児期の発達段階における呼称と思春期の心理的離乳との関係性について

坂田秋姫, 漆谷歩実, 角森遥, 中祖祐佳, 濱井陽子  
出雲医療看護専門学校 看護学科

**Keywords :** 呼称, 思春期, 発達段階, 心理的離乳

## 1. はじめに

子どもに対していつまで「～ちゃん」と呼んでもいいのか、思春期の呼称をどうしたらよいか悩むことがあった。両親から子どもに対する呼称は子どもの発達段階が関係していることが考えられ、今回親子間の呼称についての調査をしたので、報告する。

## 2. 研究目的

- 1) 小児期の発達段階における両親からの呼称や、その変化を知る。
- 2) 思春期の自立心や自尊心を尊重する呼称を検討する。

## 3. 倫理的配慮

本校倫理審査委員会の承認を得た。プライバシーの保護に努め、データは本研究以外には使用せず、研究後は廃棄することを説明した。

## 4. 方法

A 専門学校の4学科、男性143名、女性197名、合計340名を対象に両親からの呼称に関するアンケートを実施した。

## 5. 結果

1) 小学校入学前・小学生・中学生・高校生を通して「名(名前の呼び捨て)」が66.4%、次いで「名ちゃん」が17.2%であった。「名」は小学校入学前58.4%、以降増加し高校生72.6%であり、「名ちゃん」は小学校入学前22.5%、以降減少し高校生12.9%であった。

父親からの呼称は小学校入学前・小学生の時期に、母親からの呼称は小学生・中学生の時期に変化が大きく、呼ぶ側の性差がみられた。

反抗期は中学生が多く、次いで高校生であった。

2) 思春期に相応しい呼称は「名」76.6%で、その理由は「一般的だから(40.8%)」、「対等な大人として接するべき(14.0%)」であった。

## 6. 考察

1) 「名ちゃん」が減少したのは、呼ばれる側が子ども扱いされていると感じたり、他者の目を意識して恥ずかしさなどを感じているためと思われる。一方で「名」は、「一般的」、「対等な大人」であるとの認識がもたれ、両親は子どもの成長発達を感じ、「名」の呼称が増加していると考えられる。

2) 思春期は精神面での独立・自立欲求が高まる時期であり、一人の人として尊重した関わりが必要である。両親からの呼称として多いのは「名」であるが、これは家族の関係性が前提であり、看護学生から子どもへの呼称として「名」は相応しくない。「名ちゃん」「名くん」は同年齢、年下に対する呼称であるため、敬意を表す呼び名としては、「名さん」が相応しいと考えられる。

## 7. まとめ

呼称の変化と心理的離乳は関係していると考えられるが、呼ぶ側の性差などの要因がかかわっているといえる。

今後親子間だけでなく友人など第三者からの呼称に調査範囲を広げ調べていくことで、より小児期の対象に相応しい呼称が明らかになるのではないかと考える。